

「小中一貫教育研究発表会」 盛大に開催！

11月11日、東原庁舎東部校で、多久市小中一貫教育研究発表会を開催しました。多久市では「『豊かな学び』を実現し、『怒の心』を育む新たな教育の創造Ⅱ」を研究主題に、小中一貫教育4年目の学校づくりに取り組んでいます。9年間の連続性・系統性を重視した授業研究の積み重ねの公開授業と、文部科学省、佐野壽則さんに「小中一貫教育（義務教育学校）の推進に向けて」を演題に講演いただきました。

◆子どもたちは、堂々と発表し輝いていました！



公開授業は、
1年生（音楽）、
4年生（学級活動）、6年生（家庭科）、7年生（学級活動）、5年・9年生合同授業（総合的な学習）の5会場で行いました。

子どもたちは、2000人を超える参観者に臨することなく、日頃の学習の様子を披露しました。

特に、9年生から5年生に向けた「いのちの授業」は、小中一貫校ならではの取り組みであり、9年生の「いのちをみつめ、伝える」ことを、5年生は真剣なまなざしで聞いていました。

参観者は、小・中学生が合同で学習する授業や司会進行・グループでの学習活動に主体的に取り組む子どもの姿に感動を受けられていました。

文部科学省の佐野さんは、子どもたちの豊かな学びと成長を実現できるような多久市の取り組みにエールを贈られました。

東原庁舎東部校の特色ある教育実践の紹介（研究冊子より）



▲小学部サマースクール（9年生が学習支援）



▲地域で学習・異学年合同学習（5年・7年ピワの袋かけ）



▲9年間の学びのスタート（1年生入学式）

■問い合わせ

教育委員会 学校教育課

☎75-2227

温故創新

市長コラム Message for citizen

レッツ・スタート、新たなチャレンジ

市長 横尾 俊彦

地方にあっても課題は全国共通していたり、工夫の実行は全国どこでも可能となるような時代です。そこには知恵と創意工夫と情熱が不可欠。これらを備えつつ、前進あるのみです。というところで最近スタートさせた新たな動きを紹介します。

まずは未来への教育充実です。全国的にも世界的にもICTを活用する教育が重要になっています。政府でも2020年を目標に1人1台のPCタブレットを活用できる教育環境整備を方針に掲げられています。これを受けて各市町村が義務教育課程でも機器整備促進を図ろうとしています。多久市も推進中です。それには、パソコンや電子黒板などの機器整備、そして教育ソフトの充実、人材育成、それらに必要な予算確保が欠かせません。これにはまだ努力が必要ですので、有志首長で、全国の首長に呼びかけて全国ICT教育首長協議会を10月19日に設立し、互選により会長に就任しました。使命を自覚し、文部科学省等への要望提案や、相互の切磋琢磨などを展開します。

もうひとつは11月24日東京で記者発表したシェアリングシティーの取り組み。地方にいてもパソコン、インターネットが使えれば、東京や全国から仕事を受けて働くのも可能な時代になりました。空いた時間や自分の技能を、広い世界で発揮して収入につながる新たな働き方の創造でもあります。既に様々な資産や資源を共有して新たなビジネスにする動きも始まっています。その先進的リーダーを次々に多くにお呼びして研修会を5回にわたって行い、その学びを実践する人々を支える試みも始めています。相談支援センター機能を多久駅北側のワーキングサポートセンターに設け、全国ネットのシェアリングエコノミー協会傘下のNPO等と連携して進めるものです。

多久から始まる新たな潮流。未来へ飛躍をめざします。気忙しくなる歳末。かならず安全運転をお願いします！